

## 漢字2字熟語の意味の透明性の分析

桑原 陽子

### 要旨

本研究では、桑原（2013）で数値化された漢字熟語の意味の透明性について、熟語を構成する漢字の具象性、造語力との関わりを分析した。その結果、漢字2字熟語の右側の漢字の具象性が高いと、意味の透明度も高くなる傾向が示された。次に、漢字2字熟語の左側の漢字が「右側で使われない漢字」言い換えれば「左側でしか使われない漢字」であれば、意味の透明度も高くなる傾向が示された。

キーワード：漢字2字熟語、意味の透明性、具象性、造語力

### 1. 問題の所在と目的

複数の漢字から成る漢字熟語は、その意味と熟語を構成する漢字の個々の意味とが結びつきやすいものと結びつきにくいものがある。たとえば「頭痛」は「頭が痛むこと」（『明鏡国語辞典』）という意味で、「頭」「痛」のそれぞれの漢字の意味の組み合わせと結びつきやすい。一方、「皮肉」のように「皮」「肉」それぞれの意味と熟語としての意味とが結びつきにくいものがある。これは、漢字熟語の意味の透明性（transparency）の問題である。

桑原（2013）では、この漢字熟語の意味の透明性の数値化を試みた。漢字2字熟語の意味とその熟語を構成する漢字のそれぞれの意味とがどのぐらい容易に結びつけられるかについて、日本語を母語とする大学生51名を対象に調査を行った。漢字2字熟語500語について、「まったく結びつかない」を1、「非常に結びつけやすい」を5とする5段階による評定をしてもらい、51名の評定値の平均値を個々の漢字2字熟語の意味の透明性の指標とした（以後、「意味の透明度」とする）。500語のうちもっとも意味の透明度が高かったのは、「父母」（4.92）で、もっとも低かったのは「風呂」（1.78）である。また、意味の透明度の平均値は3.55であった。

本研究では、桑原（2013）で数値化された意味の透明度について、漢字の具象性、造語力との関わりを分析する。

### 2. 具象性（concreteness）<sup>i</sup>

漢字の具象性について数値化した研究は、北尾・八田・石田・馬場園・近藤（1977）まで遡らなければならない。同研究では、教育漢字881字（当時）について、日本語を母語とする大学生1000人を被調査者として調査を行っている。「この漢字から具体的な物、または事象を思い起こしますか」という問に対して「はい」「いいえ」のどちらかで回答するよう求め、「はい」と回答した割合（%）を具象性を表す数値としている。最も具象性が高い漢字とその値は「森」（99）、「林」（99）、「雨」（99）であり、最も低い漢字は「第」（7）である。

桑原（2013）の500語のうち、北尾他（1977）の881字で構成されているものは406語である。たとえば、意味の透明度がもっとも高かった「父母」については、左側の「父」の具象性が91、右側の「母」が70である。そもそも、2つの漢字の組み合わせにより漢字熟語の意味を解釈しようとするならば、個々の漢字の意味が明らかでなければ難しいので、漢字の具象性が高いことは意味の透明度が高いことと大きく関わる事が予想される。その一方で、「皮肉」（意味の透明度1.80、「風呂」について低い）のように、「皮」と「肉」の具象性がそれぞれ82、83と高くても、意味の透明度が低いものもある。

そこで、406語の漢字2字熟語について、意味の透明度と左右の漢字それぞれの具象性との間で Pearson の積立相関係数を求めた。その結果、意味の透明度と右側の漢字（以後、「右漢字」とする）の具象性との間に弱い正の相関が見られた（ $r=.213$ ,  $p<.01$ ）。左側の漢字（以後、「左漢字」とする）の具象性との間には有意な相関は見られなかった（ $r=-.008$ , n.s.）。

このことから、漢字2字熟語の右漢字については、その具象性が高いとその語の意味の透明度が高くなり、具象性が低いと意味の透明度も低くなる傾向があることが示唆される。これは、右漢字のみに見られる現象で、左漢字の具象性の高低は語の意味の透明度との関わりがない。では、なぜ右漢字の具象性が高いと熟語の意味の透明度が高くなる傾向が生じるのだろうか。

表1は分析対象となった406語のうち、右漢字の具象性が高いもの上位50語と、下位50語である。右漢字の具象性が高い50語の意味の透明度の平均値は3.69である。そのうち、意味の透明度が4以上のものは19語、3.55（意味の透明度の平均値）以上は27語である。一方、右漢字の具象性が低い50語の意味の透明度の平均値は3.13で、4以上のものは5語（始発、私用、立案、校則、後任）、3.55以上のものは12語であり、右漢字の具象性が高い漢字群のほうが、意味の透明度が高い漢字熟語が多く含まれていることがわかる。

表1 右漢字の具象性上位50語と下位50語

熟語	意味の透明度	左漢字具象性	右漢字具象性	熟語	意味の透明度	左漢字具象性	右漢字具象性
河川	4.65	82	98	子供	2.76	88	31
火口	3.68	94	98	情報	2.67	58	31
軽口	3.50	44	98	水準	2.36	90	31
乗馬	4.69	69	97	調達	2.27	43	31
落馬	4.47	62	97	保留	3.88	33	30
出馬	3.00	54	97	営業	3.80	47	30
注目	3.33	50	96	春先	3.71	65	30
専門	3.06	33	96	政治	3.67	60	30
大目	2.62	63	96	優先	3.51		30
駄目	2.12		96	企業	3.14		30
初耳	4.33	35	94	程度	2.65	17	30
点火	3.75	77	94	状態	2.80	22	28
下火	2.71	71	94	条件	2.45	27	28

## 漢字2字熟語の意味の透明性の分析

熟語	意味の 透明度	左漢字 具象性	右漢字 具象性	熟語	意味の 透明度	左漢字 具象性	右漢字 具象性
美人	4.78	60	93	非常	3.69	39	27
降雪	4.76		93	始発	4.27	46	26
開店	4.71	75	93	私用	4.24	58	26
新人	4.71	40	93	単発	3.61	45	26
戦車	4.59	80	93	専用	3.57	33	26
洗車	4.49		93	反発	3.49	31	26
愛車	4.47	46	93	使用	3.47	41	26
個人	4.16	57	93	身元	3.35	76	26
主人	3.94	57	93	採用	3.33	56	26
大人	3.90	63	93	開発	3.31	75	26
実家	3.75	73	93	流用	3.29	88	26
本体	3.61	87	93	現代	3.24	32	26
全体	3.59	34	93	時代	3.04	61	26
素人	2.84	46	93	利用	3.02	36	26
投石	4.45	70	91	外科	2.94	56	26
土足	3.37	81	91	服用	2.10	85	26
遠足	3.37	48	91	意識	2.84	35	25
採光	3.34	56	90	確約	3.47	35	24
観光	2.67	50	90	予約	3.45	21	24
緑茶	4.63	73	89	成約	3.11	33	24
着手	3.37	46	89	番号	3.08	35	24
相手	3.08	19	89	節約	2.46	48	24
選手	2.88	46	89	国際	2.92	77	23
土手	2.24	81	89	実際	2.57	73	23
空港	4.22	72	88	経済	2.33	35	23
長男	3.06	64	88	立案	4.16	75	22
虫歯	3.04	88	88	整然	2.92	55	22
益虫	2.95	27	88	平然	2.76	74	22
絵本	4.76	88	87	別状	2.69	48	22
渡米	4.06		87	自然	2.63	61	22
彼女	3.49		87	白状	2.24	65	22
基本	3.31	57	87	校則	4.06	66	21
見本	2.86	57	87	後任	4.04	35	20
言葉	2.82	65	86	研究	3.33	33	19
来日	4.31	45	85	理由	3.08	11	15
自筆	4.14	61	85	自由	2.57	61	15
野宿	3.98	77	85	調理	2.14	43	11
平均	3.69	60.51	91.58	平均	3.13	50.56	25.08

上位50語の右漢字を見ると、すべて名詞である。漢字2字熟語の語構成のパターンの中には、V+N, N+N, A+Nのように右側に名詞が来るものが多く、特に名詞が右に来る連体修飾関係の構造が最も多い(日本語教育学会, 2005)。具象性の高い名詞が動詞の目的語や形容詞の被修飾語になりやすいことは間違いなく、実際、「河川」(N+N), 「乗馬」「開店」(V+N), 「美人」「新人」(A+N)など、語構成のいずれかのパターンに容易に分類できるものが多い。このことが、意味の透明度が高くなることに関わっていると考えられる。

### 3. 造語力

漢字の造語力とは、野村(1989)によれば、造語単位としての漢字の字音のはたらきを示すものである。その造語力に関連する漢字の属性には、その漢字を使って漢字2字熟語が何種類作れるかという指標がある。さらに、漢字2字熟語が作られる際に、その漢字が漢字2字熟語の右側で使われるのか、左側で使われるのかも数値化されている。ここでは、川上(1997)とTamaoka(2004)を分析に用いる。

#### 3-1. 熟語の類似語数 (*number of neighborhood size*)

川上(1997)は、JIS一種漢字2965字を用いて作られる漢字2字熟語数を調査し、各漢字が左側に使われる漢字2字熟語数と、右側で使われる漢字2字熟語数をそれぞれ明らかにしている。たとえば、「大」が「大人」「大意」のように左側で使われる漢字2字熟語数は、533語であるのに対して、「壮大」のように右側で使われるものは72語である。つまり、「大」は、漢字2字熟語の左側で使われるほうが右側よりも多いのである。右側で使用される漢字熟語数が多い漢字としては、たとえば「人」は左で使われる漢字熟語数が149語であるのに対して、右は390語である。

桑原(2013)の漢字2字熟語500語の左漢字について、それが左側で使われる熟語数、右側で使われる熟語数と意味の透明度との間で Pearson の積立相関係数を求めたところ、右側で使われる熟語数と意味の透明度の間でのみ、弱い負の相関が有意であった( $r=-.231, p<.01$ )。次に、右漢字について、同様にそれが右側で使われる熟語数、左側で使われる熟語数と意味の透明度の間で相関を求めたところ、いずれの間にも有意な相関は得られなかった。このことから、右側で使われることが少ない漢字が左側に来たほうが、意味の透明度が高くなる傾向が示された。

#### 3-2. kanji lexical productivity

Tamaoka(2004)は、1985年から1998年までの朝日新聞の中から得られた341,771語を対象に、常用漢字1945字(当時)それぞれについて、漢字2字熟語の左側で使われている漢字熟語の異なり語数(kanji lexical productivity on the right-hand side)、右側で使われている漢字熟語の異なり語数(kanji lexical productivity on the left-hand side)を明らかにした。

そこで、まず桑原(2013)の漢字2字熟語の左漢字について、それが左側で使われる熟語数、右側で使われる熟語数と意味の透明度との間で Pearson の積立相関係数を求めた。その結果、右側で使われる熟語数と意味の透明度の間でのみ、弱い負の相関が有意であった( $r=-.205, p<.01$ )。これは、漢字熟語の右側で使われることが少ない漢字が左側に来たほうが、意味の透明度が高くなる傾向を示すものである。この結果は、川上(1997)の熟語の類似語数との分析結果と同様で

ある。なお、Tamaoka (2004)の右側で使われる熟語数(kanji lexical productivity on the left-hand side)と川上(1997)の右側で使われる熟語数の間の相関は $r=.972$  ( $p<.001$ )で非常に強い。

「右側で使われる漢字2字熟語数が少ない」ことは、「左側で使われる漢字2字熟語数が多い」こととは同義ではない。左漢字が左側で使われている漢字熟語の異なり語数と意味の透明度との間に相関が見られないからである。それでは、「右側で使われる漢字熟語数が少ない」とは何を意味するのだろうか。漢字熟語の左漢字について、右側で使われる熟語数が少ないもの上位38字と多いもの上位37字をそれぞれ表2にまとめる。桑原(2013)のうち、表2の漢字を使って作られる漢字熟語は合計112語である。

表2 左漢字のうち右側で使われる熟語数が少ない漢字, 多い漢字

漢字	Tamaoka2004		川上 1997	熟語例	漢字	Tamaoka2004		川上 1997	熟語例
	右に来 る語数*1	左に来 る語数*2				右に来 る語数*1	左に来 る語数*2		
不	0	138	2	不在, 不正	人	268	137	390	人望, 人選
最	0	33	0	最短	子	246	45	364	子機, 子供
郵	0	8	2	郵便	物	213	62	361	物騒
普	0	7	0	普通	書	171	75	248	書評
祈	0	4	3	祈願	水	162	195	228	水準, 水着
購	0	3	0	購入	行	153	76	228	行方, 行楽
紹	0	1	1	紹介	手	151	157	232	手話, 手段
距	0	2	3	距離	文	148	87	241	文化
再	1	50	2	再考, 再建	心	146	86	246	心外, 心配
孤	1	28	6	孤児	上	138	158	143	上京, 上達
予	1	32	7	予約, 予定	目	136	55	205	目測
必	1	20	0	必要	風	135	106	196	風呂
以	1	9	1	以下	事	135	32	221	事務
汚	1	13	3	汚名	気	131	73	197	気軽, 気絶
希	1	8	1	希望	中	130	179	161	中央, 中心
嫌	1	6	3	嫌味	体	127	49	159	体温, 体験
企	1	3	2	企画, 企業	学	126	79	153	学歴, 学名
魅	1	3	3	魅力	日	122	104	187	日参
悲	2	24	3	悲願	方	121	36	189	方法, 方式
採	2	30	4	採光, 採用	場	121	15	154	場所
完	2	28	3	完全, 完成	面	120	28	157	面接
永	2	12	28	永住	出	118	127	126	出産, 出題
彼	2	9	5	彼女	山	118	163	239	山積
私	3	71	6	私物, 私用 私語	作	118	33	138	作品
					用	118	43	131	用途

漢字	Tamaoka2004		川上 1997	熟語例	漢字	Tamaoka2004		川上 1997	熟語例
	右に来 る語数*1	左に来 る語数*2				右に来 る語数*1	左に来 る語数*2		
改	3	40	4	改心, 改行	頭	117	40	205	頭痛
非	3	30	7	非常	生	116	126	186	生活, 生地
抱	3	7	6	抱負	名	114	111	149	名前
撮	3	2	2	撮影	下	112	151	146	下見, 下火
横	4	63	3	横着	分	111	101	119	分散, 分別 分乗
特	4	77	4	特売, 特別 特化, 特典	本	109	194	178	本体, 本音 本当, 本来
単	4	51	9	単発	音	108	49	142	音読, 音信
未	4	34	1	未知	家	106	91	172	家出, 家庭
低	4	37	5	低温	性	106	32	119	性能
確	4	17	8	確認, 確約	言	106	26	203	言動, 言葉
暖	4	16	5	暖冬	国	103	145	152	国際, 国交
街	4	13	3	街頭	長	102	95	138	長男
駄	4	9	10	駄目	平均	146.88	90.84	195	
輸	4	6	7	輸入					
平均	1.97	24.84	4.26						

- \* 1 kanji lexical productivity on the left-hand side
- \* 2 kanji lexical productivity on the right-hand side

右側で使われることが少ない漢字を見ると、接辞（例：「不」「未」「非」）、副詞的修飾語相当<sup>ii</sup>（例：「再」「予」「必」「最」）、形容詞・形容動詞相当（例：「悲」「永」「完」「確」「低」<sup>iii</sup>）が目立つ。また、それらの漢字は左で使われる熟語数が比較的多いのも特徴と言える。たとえば、「紹」は右に来る熟語数が0であるだけでなく、左に来る熟語数も1と少なく（おそらく「紹介」と推測される）、左右にかかわらず「紹」が使われる漢字熟語数は少ない。「企」「魅」「距」も同様に、左右合わせても熟語数が5に満たない。それに対して、「不」は右に来る熟語は0だが、左に来る熟語は138と多い。「最」「再」も同様に左右差が大きく、これらの漢字は「漢字2字熟語の左にしかほとんど使われない漢字」と言い換えることもできるだろう。

一方、「右側で使われることが多い漢字」は名詞が多い。たとえば、「人」「子」「物」「水」「手」などが上位に見られる。さらに、それらが左に来る熟語数は平均90.8で、右に来る熟語数の平均146.88よりは少ないが、数そのものは少なくないことがわかる。それは、右に来る熟語数が少ない漢字が左に来る熟語数平均24.84と比較すると明らかであろう。これらのことから、「左でしかほとんど使われない漢字」は接辞や副詞的修飾語相当、形容詞・形容動詞相当を多く含み、それが左に来ることで、意味の透明度が高くなることが示唆される。

次に、桑原(2013)の漢字2字熟語の右漢字について、それが左側で使われる熟語数(kanji lexical productivity on the right-hand side)、右側で使われる熟語数(kanji lexical productivity on the left-hand side)と意味の透明度との間で Pearson の積立相関係数を求めたところ、いずれの間に

も有意な相関は得られなかった。

#### 4. 考察

漢字2字熟語の意味の透明度と、熟語を構成する個々の漢字の属性との関係进行分析したところ、意味の透明度の高低に関わる2つの属性が明らかとなった。まず、漢字2字熟語の右漢字の具象性が高いと、意味の透明度も高くなる傾向が示された。次に、漢字2字熟語の左漢字が「右側で使われることが少ない漢字」言い換えれば「左側でしかほとんど使われない漢字」であれば、意味の透明度も高くなる傾向が示された。

左側でしかほとんど使われない漢字、すなわち接辞、副詞的修飾語相当、形容詞・形容動詞相当が左に来る場合、その右側には主として被修飾語となる漢字が必要になる。それがより具象性の高い漢字であれば、修飾関係が明らかとなり、その結果個々の漢字の意味から熟語の意味を解釈しやすいことが予想される。このように考えれば、本研究で明らかになった2つの属性と意味の透明度との関わりが説明可能である。

ただし、漢字の具象性については次のような問題が残る。たとえば、表1の「来日」(透明度4.31)、「渡米」(透明度4.06)はいずれも意味の透明度が高く、右漢字「日」(具象性85)、「米」(具象性87)の具象性も高い。しかし、「来日」の「日」は「日」ではなく「日本」を指し、「渡米」の「米」は「米」ではなくアメリカを意味する。また、「本体」(透明度3.61)、「全体」(透明度3.59)の「体」もおそらく単独では「体」と訓読みされた結果、具象性が93という高いものになっているはずだが、「本体」「全体」は字音語であり、その中の「体」の意味は「からだ」ではない。たとえば、「本体」の「体」の意味は、「もちまえ。本性。物事の根本となるもの」(『新漢語林』)であり、「体」の持つ意味の中では4番目に記載されるものである。このように、熟語の中で各漢字の担う意味は、北尾他(1977)の調査の際に想定された漢字単独の意味とは異なる場合がある。

また、ある熟語が省略され、それが漢字1字で表される場合もある。たとえば、「自宅配達」が「宅配」と省略され、「宅」が「自宅」を表し、「配」が「配達」を表しているような例である(日本語教育学会,2005)。右漢字の具象性が低いにもかかわらず意味の透明度が4以上の5語のうち、「始発」「校則」については、右漢字の「発」は「発車」,「則」は「規則」が省略されたものと考えられる。そのため、「発」(具象性26)「則」(具象性21)単独の具象性が低くても、「発車」「規則」が想起されることによって右漢字の示す意味がより具体的になり、そのことが、意味の透明度の高さに影響していると推測できる。

具象性と意味の透明度との間の正の相関が有意とは言え、相関自体が強くないのはこのような熟語が含まれているためと考えられる。

#### 引用文献

川上正浩(1997)「JIS 一種漢字2965字を用いて作成される漢字二字熟語数表」『名古屋大学教育学部紀要(心理学) 第44巻,234-299.

北尾倫彦・八田武志・石田雅人・馬場園陽一・近藤淑子（1977）「教育漢字881字の具体性・象形性および熟知性」『心理学研究』48号（2）,105-111.

桑原陽子（2013）「漢字2字熟語の意味の透明性の調査」『福井大学留学生センター紀要』第8号, 1-14

張志剛（2014）『現代日本語の二字漢語動詞の自他』くろしお出版

日本語教育学会（編）（2005）『新版 日本語教育次点』大修館書店

野村雅昭（1989）「漢字の造語力」佐藤喜代治編『漢字講座第1巻 漢字とは』193-217.

Tamaoka Katsuo (2004) The 4th Edition database for the 1,945 basic Japanese kanji

<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~ktamaoka/download/index.html> よりダウンロード

- i 北尾他（1977）では、「具体性」としているが、ここでは「具象性」とする。なお、北尾他（1977）でも、「具体性」の英訳には concreteness を充てている。
- ii 「副詞的修飾語相当」「形容詞・形容動詞相当」の用語は、日本語教育学会（2005）による。
- iii 「永」「完」「確」については、張（2014）の分類をもとに、形容詞・形容動詞相当と判断した。



An analysis of semantic transparency of two-Kanji compounds

Yoko Kuwabara

The present study analyzed a relationship between semantic transparency of two-Kanji compound and attributes of its component characters. The results showed that there is a positive correlation between semantic transparency and the concreteness of right-hand Kanji. The results also showed that there is a negative correlation between semantic transparency and lexical productivity of left-hand Kanji.

Keywords: Two-Kanji compound, Semantic Transparency, Concreteness, Lexical Productivity